

なし

発行年	1910
URL	http://hdl.handle.net/10114/523

第二節 代理

理由凡ソ法律行為ハ其行為ノ性質ニ及セ
サル限々ハ他人ヲシテ之ヲ爲サシムルコ
トヲ得ルヲ以テ原則ト爲ササル可カラス
加之法律ハ或場合ニ於テ代理人ヲシテ本
人ニ代リテ諸般ノ法律行為ヲ爲サシムル
必要アリ是ニ於テ委任ニ因ル代理ト法
律上ノ代理トノ區別ヲ生ス而シテ代理力
其何レノ種類ニ属スルヲ問ハス本人ト代
理人トノ關係及ニ第三者ト本人丈小代理
人トノ關係^{即チ規定ニヤル下カラス}ハ本案ニ
於テハ^{代理ノ規定ニヤル下カラス}近世ノ法律例ニ徴^{茲ニ}スル^{於テ}第
三者ト本人及ビ代理人トノ關係ニ付キ必
要ノ規定ヲ設ケタリ^{但此第三者ト代理人}
トノ關係タルヤ素ト純然タル代理關係ニ
非ストモ汎ク代理關係ヲ解スルトキハ
之ヲ以テ其一部トナスコトヲ得ヘシ是レ本
節ニ於テ第三者ト本人トノ關係ヲ規定ス
ルト同時ニ第三者ト代理人トノ^{代理ノ規定ニ}關係ヲ促
セテ規定シタル所以ナリ又^{委任ノ代理ハ}本人ト代理人
トノ關係ハ委任契約ノ關係ニシテ代理關
係ノ範圍内ニ属セサルヲ以テ之ヲ第三編
ニ譲リタリ但法律上ノ代理ハ其各種ノ代
理人ニ付テ別段ノ定ナキ限必^然統テノ点ニ
於テ本章ノ規定ニ依ルヘシトス
既^成法律行為ハ其財產取得歸テ第一章ニ於テ

代理ト云へル標題ニテ委任者ト代理人トノ關係及ヒ第三者ト委任者又ハ代理人トノ關係ヲ併セ規定シタリト雖モ其規定ノ十中八九ハ委任者ト代理人トノ契約關係ニ屬シ彼ノ第三者ト本人又ハ代理人トノ關係ニ至リテハ之ヲ規定スル條項甚タ不充分ナリトモ既成法典ハ近世ノ學ヲ理セ基キ實際ノ必要上ヨリ一般ノ法律行為ニ付キ代理ヲ認メタルニ拘ラズ尚ホ此點ニ付キ羅馬法ノ舊套ヲ脱セザル如キ觀アルハ頗ル惜ハ一キコトト謂フヘシ今本案ニ於テ茲ニ代理ニ關スル規定ヲ掲グル

法典調查會

モノハ主トシテ此以テ主ヲ補ハントスルノ主意ニ外ナラザルナリ

第五百條

(理由) 本條ハ代理人カ代理行為ヲ爲スニ必要ナル條件及ヒ其代理行為ノ效力ヲ規定シタルモノナリ所謂代理行為ノ必要條件トハ代理人カ其代理權ノ範圍内ニ於テ法律行為ヲ爲スコト及ヒ明示又ハ默示ニテ本人ニ代リ其行為ヲ爲スノ意思ヲ表示スルコト即チ是ナリ而シテ此ニ條件ヲ具備シタル代理人ノ法律行為ハ直接ニ本人ニ對シテ其效力ヲ生シ本人ハ之ニ因リテ權利

ヲ得又ハ義務ヲ負フモノトス蓋シ代理人
ハ單ニ本人ノ機臭ニ非シテ自己ノ意思
ヲ表示シ其意思表示力直接ニ本人ノ利害
ニ於テ其效力ヲ生スルモノタルコトヲ示
シタルナリ

第二項ハ第三者カ代理人ニ對シテ催告又
ハ解約ノ通知ノ如キ單獨行為ヲ爲シタル
場合ニ於テハ直ニ第一項ノ規定ヲ適用ス
ルコト能ハサルニ因リ獨ニ民法草案ノ例
ニ倣ヒテ之ヲ置ケリ

第一百條

〔理由〕本條ハ代理人カ法律行為ヲ爲スニ當
リテ本人ノ爲メニスル意思ヲ表示セヌ又

法典調査會

自己ノ爲メニスル意思ヲ有セサルヘキ場
合ヲ規定シタルモノトス蓋シ此場合ニ於
テハ眞實ノ意思ハ表示セラレス現ニ表示
セラレタル意思ハ眞實ノ意思ニ非ラサル
ヲ以テ一般ノ原則ニ依ルトキハ其意思表
示ハ何等ノ效力ヲ生セザルモノナリ然
レトモ代理人カ本人ノ爲メニスル意思ヲ
表示スルコトヲ怠リタル場合ニ於テハ假
令自己ノ爲メニスルノ意思ヲ有セザリシ
トオト雖モ之ヲシテ其意思表示ノ拘束ヲ
受ケシムルコトハ實際ニ於テ極メテ必要
ナリトス之ヲ要スルニ本條ノ規定ハ前條
ニ所謂本人ノ爲メニスルコトヲ示シテ意

意思表示ヲ為スヘキ要件ニ皆キタル制裁ナ
リトス若シ夫レ代理人カ本人ノ為メニ
ル意思ヲ表示セスレテ為シタル法律行為
ニ何等ノ效力ヲモ附セサルハ第三者ハ
之カ為メニ不測ノ損害ヲ蒙ルに至ル可シ
是レ即チ独逸民法第百一十四條ノ例ニ倣ヒテ本條
ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第二百二條

〔理由〕本條ハ財産取得編第二百三十四條ノ
規定ニ字句ノ修正ヲ加ヘタルモノニ過キ
ス原文ニ委任者ト代理人トノ關係ノミ
ニ付テ規定セリトモ此規定タル本人ト
第三者トノ關係ニ於テモ亦適用スヘキモ

法典調査會

ノトス蓋シ代理人ノ無能力者タルコトヲ
妨ケサル所以ハ他ナシ其代理行為ニ依リ
テ自ラ損失ヲ受クルコトナキヲ以テ無能
力者ノ保護ヲ害スルコトナシ無能力者ト
モ苟モ本人ニ於テ自己ノ代理人ト為ル
ニ足ルモノトセハ取テ之ヲ禁ズルノ必要
ヲ見サルナリ但本條ニ於テ無能力者ト稱
スル者ハ限定能力者ノ謂ニシテ其全ク意
思能力ナキ者ニ付テハ固ヨリ本條ヲ適用
スヘキニ非サルナリ

第二百三條

〔理由〕本條ニ於テハ代理人ハ自己ノ意思ヲ

表示スルモノトスルノ主義ヲ採レリト雖
モ第百条第一項ノ規定ハ未タ此主義ヲ明
ニスルニ足ラサルヲ以テ茲ニ本条第一項
ノ規定ヲ設テ以テ此主義ヨリ生スル一
結果ヲ示シタリ第二項ハ即チ第一項ニ對
スル制限ニ外ナラス今此制限ヲ設ケタル
所以ハ他ナシ此場合ニ於テハ本人カ代理
人ノ決意ニ與ツテ大ニカアリタルヲ以テ
ナリ

第百四條

(理由) 本条ノ規定ハ既ハ法律及ヒ諸外國ノ
法律ニ存スル規定ナリトス抑モ代理権ノ
範圍ヲ定ムルハ畢竟意思ノ解釋ニ俾スヘ

法典調査會

キモノタルコト論ラ俟タスト雖モ若し本
人カ代理権ノ範圍ヲ定メスニテ汎博ナル
委任ヲ與ヘタル場合ニ於テ代理人カ賣買
贈與其他ノ處分行為ヲモ爲スコトヲ得ハ
キモノトセバ其危險甚大ナルヲ又本
人ノ意思ニ依スルコト多クハキニ依リ
法律ヲ以テ其権限ノ範圍ヲ定ムルヲ便ト
ス但簡理行為ノ何タルコトニ付テハ疑議
ヲ生スルコトナカルヘキニ依リ此ニセテ
掲ケサレナリ

第百五條

(理由) 本條ハ財産取得條第二十三條ニ修
正ヲ加ヘタルモノトス原文ニ依リハ代理

人時ニ禁セラレサル限ハ後代理人ヲ選任
スルコトヲ得ルモノトセリ又ハ佛國其他
ノ立法例ニ徴ヒタルモノナリト雖モ委任
ノ本旨ニ悖ルモノト謂ハルハ得ス蓋シ
委任者ハ代理人ノ適任ナルコトヲ信シテ
之ニ委任ヲ爲シタルモノニシテ代理人カ
自ラ適任ト認メタル者ニ代理ヲ爲サズ
ル意思アリタルモノト推定スルハ頗ル其
當ヲ得ナリ故ニ本案ニ於テハ代理人ハ
其一己ノ意思ヲ以テ後代理人ヲ選任スル
コトヲ得サルヲ原則トシ茲ニ此原則ニ對
スル例外ノ場合ヲ規定シタリ

第百六條

法典調査會

(理由) 既而法典ニ依リハ委任者ヲ明示又ハ
默示ニテ後代理人ノ選任ヲ禁セサル限ハ
代理人ノ選任ヲ爲スコトヲ得ヘキヲ以テ
其場合ニ於テ代理人ハ後代理人ノ行爲ニ
付キ自己ノ管理ニ於ケルト同一ノ責任任
スハキコトニ定メタリト雖モ(取二三)一
項未段(本案)ニ於テハ前条ニ到奉セル場合
ニ限リ後代理人ヲ許スニ因リ其場合ニ於
ケル代理人ノ責任ハ既而法典ニ定ムル日
リモ一層輕カラサルコトヲ得ス蓋シ本案
條一項ヲ設ケタル所以ナリ第ニ項ハ原文
條ニ項ニ聊カ字句ヲ修正ヲ加ハタルモノ
ニ過キス又原文第三項ハ前述後代理ニ關

スル原則ノ変更ノ結果トシテ之ヲ削除セ

第百七條

應由本條ハ財産取得締結ニ百三十六條ニ
該當スルモノニシテ原次第一項ハ其一部
ハ本條ニ採リタル主義ノ結果トシテ其適
用ヲ生ゼズ又一部ハ本條ノ規定アル場
其必要ナキニ因リ之ヲ削レリ同第二項ハ
如キモ但其主幹ノ規定ノミセテ設クル必
要アルヘキニ因リ本條ニ之ヲ採用セリ但
直接訴訟ナル語ハ此語ヲ要スル如ク聞エ
穩當ナラサルヲ以テ直接ニ裁判ヲ行使シト
改メタリ又追認ノ如キヲ生スルハ本人ガ

法典調査會

復代理人ニ對シテ權利ヲ行使スル場合ノ
ミコ在ラスモノニ對シテ義務ヲ履行セザル
場合ニ於テモ亦同一ノ結果ヲ生セザル可
カラサルカ故ニ又ハ義務ヲ履行セザルハ
ホノ數字ヲ加ヘタリ

第百八條

(理由) 本條ノ規定ハ代理人ト復代理人ト其名稱ヲ異ニスル者ノ或ハ疑義ノ生スルヲランコトヲ恐レ之ヲ設ケタルノミ

第百九條

(理由) 允ソ代理人カ本人ノ為メニ代理ヲ為スニ當リテハ忠實以テ其事ニ従ハサル可カラスト今若シ代理人カ本人ニ代ハリテ自己ト法律行為ヲ為スコトヲ得ヘシトセハ本人ノ利益ト自己ノ利益ト抵觸スルノ結果ヲ生スルコトナレトセス此場合ニ於テ代理人ハ本人ノ利益ヲ後ニシテ自己ノ利益ヲ先キニスルコトアルヲ免レサル

法典調查會

ヘシ然ルニ若シ之ニ責ムルニ必ス本人ノ利益ヲ先キニスヘキコトヲ以テセハ是レ難キヲ人ニ責ムルモノト謂ハサル可カラズ代理人カ第三者ノ代理人トシテ法律行為ヲ為ス場合ニ於テモ亦殆ト同一ノ困難ヲ生シ其一方ノ本人ヲ利セントスルトキハ他ノ一方ノ本人ノ利益ヲ顧ルニ違アラサルコト多シトス故ニ本案ニ於テハ代理人ハ何レノ名義ヲ以テスルト問ハス自己ト法律行為ヲ為スコトヲ得サルヲ以テ原則ト爲シタリ但第ニ項ノ場合ニ於テハ毫毛弊害ノ之ニ伴フモノナキヲ以テ例外トシテ之ヲ許スコトニ定メタリ

第百十條

(理由) 既成法典ニハ第三者ニ對スル意思表
示ニ依リテ代理權ヲ授與スルコトヲ得ル
規定アルナシ是レ一ノ欠点ナリト信ス蓋
シ吾人々第三者ニ對シテ或人ニ代理權ヲ
授與スル意思ヲ表示シタルトキハ其人ト
ノ間ニ委任契約ノ存條ナキニ拘ハラズ本
条ニ定メタル效果ヲ生スルモノト爲スコ
ト實際ニ於テ極メテ必要ナリト是レ独
乙民法草案ニ倣ヒテ本条ノ規定ヲ設ケタ
ル所以ナリ

第百十一條

(理由) 本条ハ財産取得締約二百五十五條第二項ノ規定ヲ採用シタルモノナリ凡代理人ノ權限外ノ行為ヲナシタルトキハ其行為ハ固ヨリ本人ニ對シテ何等ノ効力ヲ生セサルモノトス假令第三者ニシテ善意ナルモ其一事ヲ以テハ未タ此章則テ覆スニ足ラサルナリ然リト雖モ蓋シテ第三者カ善意ニシテ且ツ代理人ニ其行為ヲ權限アリト信ス可キ正當ノ理由ヲ有スルトキハ契約取引ノ安全ヲ保持スル爲メ其代理人ノ爲シタル權限外ノ行為ヲ有效ト爲スノ必要アリトス是レ本条ノ規定ヲ置キタル所以ナリ

法典調査會

第百十二條

(理由) 本条第一項ハ法律上ノ代理ト代理ト委任ニ因ル代理トニ通用スヘキ規定ナルヲ以テ此ニ之ヲ置ケリ其委任ニ因ル代理ニ特別ナル代理權消滅ノ原因ハ之ヲ第三編中委任ノ条下ニ於テ規定セルトス

第百十三條

(理由) 本条ハ財産取得締約二百五十八條ニ依リタルモノニシテ第三者ヲ保護スル爲メ極メテ必要ナル規定ナリトス瑞西債務法及ヒ独逸民法草案ニ依リハ代理權ノ消

減ハ之ヲ第三者ニ通知スルニ非ラズレハ其效ナキモノトアリ然リトモ此規定タル其通知ノ方法如何ニ依リ或ハ第三者ノ為メニ不充分ナルヘク或ハ之ニ及ミテ巨多ノ費用ト午數トヲ要シ煩ニ過クル弊アルヘシ故ニ本案ニ於テハ^{條同}特達或法其他大半ノ文法例ニ倣ヒ代理権ハ前条ニ揭ケタル事由ニ依リテ当然消滅スルモノトシ只善意ニシテ且ツ過失ナキ第三者ニノ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得カルモノトセリ又獨逸民法草案ニ於テハ本人力代理人ニ委任状ヲ交付シタル場合ニ於テ其委任状ノ返還ヲ受ケサル力又ハ裁判所力其效無ク宣言セサル間ハ代理権ハ消滅セサルモノト爲ス^{此トモ是亦第三者保護ニ於テ其適否ノ範圍出テ且場合ニ依リテハ極メテ不便ナル視タルヲ免レヌ故ニ本案ニ於テハ此ノ如キ特別ナル場合ニ付キ規定タル方ヲ採ラシテ專ラ事實裁判官ノ認定ニ一任シタリ}

法典調査會

百十四条

(理由) 本条以下ハ全ク代理権ヲ有セス又ハ代理権ノ範圍ヲ起ヘテ爲ミタル法律行為ノ效果ヲ規定シタルモノナリ 本案ハ^{條同}特達草案ニ倣ヒ失フ契約ノ場合ト單獨行為ノ場合トヲ區別セリ代理権ヲ有セサル者カ契約ヲ爲ミタル場合ニ於テハ其契約ハ本人ノ追認ヲ限ハ之ニ對シテ人主リ其效力ヲ生セ

代理人の相争方ニ對シテ全ク其責
 ヲ免レテ相争方モ亦一定ノ範圍内ニ於テ
 拘束セラルルモノトス要スルニ此場合ニ
 於テハ代理権ヲ有セザル者ノ行爲ハ何人
 ・對シテモ無効ナルニ非スレテ一種ノ効
 カヲ生ズルモノナリ之ニ反シテ代理権ヲ
 有セザル者ク爲シタル單獨行爲ハ其效力
 ナキヲ以テ原則ト爲シ三才百十九條ニ協
 ケタル場合ニ限リ契約ニ干スルホ至以下
 ノ規定ヲ適用ス可キモノトナリ是ハナレ
 單獨行爲ハ契約ト異ナリテ全ク相手方ノ
 行爲ニ非ス追認ニ因リテ其效力ヲ生ズル
 キモノトスルハ本人ノ爲メニハ利益ナル

法典調査會

フト論ヲ俟タストモ相争方ニ於テハ其
 行爲ノ效力不確定ナル爲メ迷惑サナレト
 セス尤モ本人ニ對シテ或期間内ニ確答ヲ
 爲スヘキ旨警告セシムルフトナリサルニ
 非ストモ斯ノ如キ煩勞ヲ取ラシムルハ
 理由ナキ醜待ト謂フサルヲ得ヌ唯其代理
 人ト稱スル者ノ代理権ヲ有セスレテ單獨
 行爲ヲ爲スフトニ同意シ又ハ其代理権ヲ
 爭ツザリシトキハ限リ契約ニ干スル規定
 ヲ適用スルフトナリ得ヘキモノニ要スルニ代
 理権ナキ代理ヲ認らんノ必要ハ主トシテ
 契約ニ付キ之ヲ見ルナリ

既成協約ニ於テハ代理人ノ權限外ニ爲シ

〇ル行爲ニ付キ委任者ハ追認ニ因リテ其
 責ニ任サルコトノ外取ニ五〇二項中何
 等ノ規定ヲモ該セタルヲ見ス或ハ事務管
 理ニ干スル規定ノ適用ニ依リ代理セラレ
 タル者ノ利益ヲ多クノ場合ニ於テ保護セ
 ラルコトヲ得一レトモ完全停止ヨリ考
 ルトキハ不完全ヲ免カレザルハ是故ニ他
 然ラン代理ノ規定ニ依キ亦各以下ノ規定
 ヲ該セタル所ニナリ

第百十五條

(理由) 本條ハ代理權ヲ有セザル者ト契約ヲ
 爲シタル相手方ハ其契約ニ拘束セラルン
 コトヲ要スト共ニ其拘束ヲ免カルベクモ

法典調査會

法ヲ定メタルモノトモ蓋シ契約トモ相
 チ方アレテ隆限ナク之ニ拘束セラレ
 トナスコトキハ權利關係ノ永久確定セザル
 不都合ヲ生ズヤシ以テ相手方ヲシテ相
 當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ追認ヲ爲スヤ
 否ヤシ確定スヤ旨ヲ本人ニ催告スルコ
 トヲ得セシメタリ而シテ本人ハ其期間内
 ニ確定ヲ爲ササルトキハ追認ヲ拒絶シタ
 ルモノト看做スヘキコト固ヨリ論ヲ俟リ
 ケル所ナリ惟ニ民法草案ニ於テハ本人ハ
 二週間内確定ヲ爲サザルトキハ追認ヲ拒
 絶シタルモノト看做スノ規定ナリトモ
 斯ク法律ニ於テ一切ノ場合ニ適用スヘキ

則同ノ定メレヨリハ章ハ瑞西債務法ニ依ヒ
相當ノ期間ヨリ破産ヲ為サレルヲ以テ
便利ト信シタリ

第百十六條

(理由)代理權ヲ有セザル者ノ為シタル契約
ハ其相手方ニ對シテハ尙然無効ニ非サル
ト前二條ノ規定ニ依リテ已ニ明ナリト
是モ其代理ノ人ト爲ル者力代理權ヲ有セ
ザルコトヲ知リタル場合ト之ヲ知ラザリ
シ場合トニ依リテ其結果ト異ニスル所ナ
カルハカラス若夫レ相手方カ代理權ノ欠
缺ヲ知ラザリシトヤレ之ヲ知ラザルノ取
消ヲ求めんコトヲ許セシメルヲ至奇ナリ

法典調査會

ト之ニ及シテ代理權ノ欠缺ヲ知リタル
場合ニ於テハ本人ノ追認ヲ請フシテ契約ヲ
爲シタルモノナリヲ以テ檢モ彼ノ未成年
者ト契約ヲ爲シタルニ同シテ前條ノ規定
ニ依リ本人ニ對シテ催告ヲ爲スコトヲ許
スルハ他ノ保護ヲ受タヘキモノニ非サル
ナリ

第百十七條

(理由)本條ノ規定ハ既成法典ニ在リ之ナレト
モ又諸國ノ法律及ヒ學說ニ於テ殆ト一致
ニ認ムル所ナリ然リトモ又明文ナキトキ
ハ或ハ疑ヲ生シ得ヘキト但書ヲ以テ其兩
用ヲ制限スルノ必要アルヲ以テ此之ヲ置シ

第百十八條

(理由) 本條ハ代理權ヲ有セサル者カ他人ノ代理人トシテ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其相手方ニ對スル責任ヲ定メタルモノナリ此場合ニ於テ若本人カ其契約ヲ追認スレハ代理人ニ責任アルコトヲ要セスト雖ヒ追認ナキトキハ相手方ニ對シテ代理權アリト信セシメタル過失ノ責任ニ任セサルハカラス本條第一項ハ即チ其責任ノ何タルコトヲ示シタルモノニシテ代理人カ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負フコトニ付テハ諸國ノ法律其規定ヲ異ニセスト雖モ尙ホ相手方ノ選擇ニ從ヒテ履行ノ責

法典調査會

ニ任スヘキヤ否ヤニ付テハ立法例一定セズ既成法典財産取得篇第二百四十四條未又ハ即チ本條第一項ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ此規定ニ依ルトキハ代理人ハ單ニ損害賠償ノ責任ノミヲ負担スルモノナルヤ又ハ履行ノ責任ヲモ負担スルモノナルヤニ付テ頗ル明瞭ヲ缺ケリ然レトモ草案註釋書ニ就キ考ルトキハ單ニ賠償ノ責任ヲ規定シタルモノノ如シ佛蘭西荷蘭伊太利モンテネグロ西班牙諸國ノ民法及ヒ印度契約法等ニ於テモ亦此主義ヲ採リ南法第三百四十三條ハ代理ノ通則トシテ本條ノ場合ヲ規定シタリト雖モ其規定

甚々簡ニシテ草案説明書(三九六)ニ依ルモ

本編ノ點ニ付キ其何レニ決セント欲シタ
(草案ニ依リテ本編ニ決メテ之ヲ施行スルニ付キ其何レニ決セント欲シタ)

ルヤヲ確カスルニ苦ムナリ然リハ雖モ同

法第四十九條ハ代務人ニ付キ本條第一項

ト同一ノ規定ヲ掲ケタリ是レ特逸高法ノ

規定ニ倣ヒタルモノナリ特逸高法草案ニ

於テハ代理ノ通則トシテ本條第一項ノ場

合ニ履行又ハ賠償ノ責任アルコトヲ規定

セリ是レ取引ノ安全ヲ維持スルニ適當ノ

規定ト認ムルヲ以テ此ニ之ヲ採用セリ

第二項ノ規定ハ第一百十六條ノ規定ト相照

應シテ相手方ノ權利ヲ定メタルモノナリ

ト雖モ其條件ニ付テハ少シク相異アル所

法典調査會

アリ第一百十六條ニ於テハ相手方カ代理權

ノ欠缺ヲ知りタル場合ト過失ニ因リテ之

ヲ知ラサリシ場合ト同一視セズ其過失

ニ因リテ之ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ取

消權ヲ有スルモノトセリ抑モ相手方カ代

理權ナキコトヲ知りテ契約ヲ為シタル場

合ニ於テハ本人又追認ヲ期望シタルモノ

ナレバ以テ糲リニ之ヲ取消ス考スコトヲ

得セシム可カラスト雖モ過失ニ因リテ其

事實ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ同一ノ斷

定メ下スニトテ得ス理論上ヨリ觀察スレ

ハ其契約タル當事者ナキノ故ヲ以テ本來

無效ノモノトス然ルニ法律上當然之ヲ無

效トセサル所以ハ唯相手方ノ所爲ヲ責ム
ル趣意ニアラスレテ寧ロ本人及ヒ相手方
双方ノ爲ノミ便利ナルハキカ故ナリ果レ
テ然ラハ其取消權ノ範圍ハ特別ノ理由ナ
キ限ハ妄リミ之ヲ制限セサルヲ當然トス
代理權ナキヲ知ラサリレトニ付テマテ
相手方ノ不注意ノ責ムルノ理由ヲ見サレ
ナリ之ニ反レテ本條ノ場合ニ於テハ^元自
己ノ爲メニ契約ヲ爲スノ意

思ナキ者ノ責任ヲ定ムタルモノニシテ其
代理人ト称スル者ハ或ハ好意ヲ以テ之ヲ
為シタル^ヤ知ルハカラス然ルニ其一方ノ
事情ハ毫モ^視視ル所ナク相手方カ相當ノ注
意ヲ用エレハ知ルコトヲ得ハキ代理權ノ
欠缺ニ付テマテ之ニ對シテ其責ニ任セサ
ルコトヲ得サルモノトスルハ少シク酷ニ
過クルモノト謂ハサルヲ得ス假令其場
合ニ於テ代理人ニ對シテハ權利ナキモノ
トスルモ善意ナル故ヲ以テ前條ノ保護ヲ
享有スヘク又^第第百十六條ノ催告ヲ為
スコトヲ得ハシ故ニ其過失ノ責ニ任セレ
ムルモ敢テ酷ニ失スルモノト謂フコトヲ得サルナリ

法典調査會

第二項末文ハ無能力者ヲ保護スル為メノ
規定ニシテ説明ノ必要ヲ見サルナリ

第百十九條

(理由)單獨行為ニ付テハ本條ニ掲グル條件
ノ具備スル場合ノ外代理權ナキ代理ヲ認
メサルヲ以テ原則ト為スヘキコトハ已ニ
第百十四條ノ説明中ニ述ヘタルヲ以テ茲
ニ再ヒ之ヲ論セス本條末文ノ規定ハ例ハ
ハ辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ辨濟ヲ
為シタル如キ場合(四八七、助四五六)ニ適用
スヘキモノニシテ本文中ニ包含セサルヲ
以テ之ヲ加ヘタリ